第1.2版（　2026 年 1 月 13日作成）

国立精神・神経医療研究センター病院 3 階南病棟にて
脳神経小児科、脳神経外科での入院をされた方へ

このたび、国立精神・神経医療研究センター病院 3 階南病棟にて、脳神経小児科、脳神経外科で入院した際の診療情報等の一部について、下記の研究に対し提供を行います。この研究では、国が定めた倫理指針に基づき、対象となる方お一人ずつから直接同意をいただくかわりに、利用目的等を含む研究の実施について、情報を公開いたします。

この研究に対し診療情報等を利用することにより、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ございませんが、ご自身の診療情報等を利用・提供して欲しくない場合は、問い合わせ窓口までご連絡ください。なお、利用・提供してほしくないと申し出られた場合でも、なんら不利益を受けることはございません。

1. 対象となる方

2024 年 6 月 1 日より2024 年 8 月 31 日までの間に、脳神経小児科、脳神経外科で3階南病棟に入院されたてんかんの診断を受けている方

2. 試料情報の提供のみを行う者の機関名・所属・氏名

機関名：国立精神・神経医療研究センター病院
所属・氏名： 看護部・山田真太郎

3. 試料・情報を提供する研究課題名と研究代表者又は研究責任者

研究課題名：NCNP のてんかん看護における身体抑制に関する実態と背景要因の調査
研究期間：研究実施許可受領後から 2027 年 3 月 31 日まで
研究代表者(研究責任者)：国立精神・神経医療研究センター病院 看護部 山田真太郎

4. 利用又は提供する試料・情報等と取得方法について

情報等：
・身体抑制の種類と方法、実施期間：
どのような抑制方法が用いられたか。抑制が行われた日数、1 日あたりの抑制時間
・身体抑制の目的：(手術の有無、転倒予防、発作時安全確保、点滴保持など)
・抑制の指示者・判断根拠：抑制を指示した医師、またその根拠。看護師が必要と考えた場合は、その根拠。
・抑制の理由・適応：抑制の理由や適応状況（生命の危険、代替手段の不可、一時的対応、てんかん薬減薬など）
・抑制解除のタイミング・判断基準：抑制解除の判断基準や実際の解除タイミング。

・合併症・有害事象：抑制による皮膚障害、精神的影響、転倒・転落、その他の合併症の有無。
・患者背景、環境要因：患者背景：年齢、性別、てんかんの発作型や頻度、認知症の有無、治療内容、医療デバイスの有無、ADL、付き添いの有無　環境要因：人員配置、時間帯など

(取得方法)　診療録、看護記録から入手

5. 試料・情報の利用目的及び利用方法

てんかんという疾患がある患者様が発作等による外傷を回避するために、病棟では身体抑制を実施することがあります。しかし、てんかん患者様には発作焦点や発作型の違いなどにより、個別性の高い看護が求められており臨床での判断にジレンマを抱くことがあります。
本研究では、身体抑制の実態、それを行う看護師の認識を明らかにすることで、不要または過剰な身体抑制を減らし、てんかん看護の質向上の一助になると考えております。そのため、データ取集のため診療録、看護記録を利用したいと考えています。

提供を行う際には、研究計画に従い、診療情報等の個人情報は加工処理を行った上で、対象となる方の氏名や住所などが特定できないよう安全管理措置を講じたうえで取り扱います。

6. 利用又は提供を開始する予定日

研究開始日を予定しています。

7. 問い合わせ窓口

この研究課題の詳細についてお知りになりたい方は、下記問い合わせ担当者までお問い合わせください。

機関名：国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院
所属：看護部　氏名：山田真太郎
電話番号　:042-341-2711（内線:7300）
e-mail:yamada.s※ncnp.go.jp（「※」を「@」に変更ください。）